

自著と
その周辺

日本住血吸虫症 —特に脳症型・肝脾腫型を中心に—

林 正高 著

三恵社
2015年12月25日初版発行
2,500円+税

本書の内容の概略を紹介したい。日本住血吸虫症は日虫の感染により起こる寄生虫感染症であるが本書では特に脳症型、肝臓機能障害から意識障害を合併する肝脾腫型を中心に触れている。

日虫症は山梨県では「地方病」と呼ばれており、有病地住民は日虫症の詳細を、日虫の生活史から幾多の症状を熟知しており、本症の恐ろしさを子供の時から親たちや学校で教えられていたからである。中国の有病地は中国本土を横断する長江に沿った周辺に広く広がっており、6千万人の感染患者がいて、決して狭い地方を意味しない。

住血吸虫には日本、マンソン、ビルハルツ、メコン住血吸虫の4種類がありこれらの有病地は世界に広く広がっていて、2億人以上の患者がいるという。

日虫の人類との関わりについては紀元前201年に埋葬された中国湖南省長沙の古墳から1972年に出土した長沙国王夫人の死体の解剖により肝、直腸から新旧の日虫卵が発見されたことから有病地では国王の夫人でも日虫の感染が繰り返されてきたことが分かる。

日本では1582年、武田信玄の軍兵書「甲陽軍艦」に日虫症肝脾腫型の主症状である腹水のため戦列に参加出来ない家来の水腫腸満の患者の記載があり甲府地方では戦国の世から本症の患者がいたことが分かる。日虫症が如何に恐ろしい病気として土地の住民が感じていたかは江戸時代に甲府盆地で歌われていた民謡に「竜地団地（有病地名）に行くなら背負って行け棺桶」、「仲の割（有病地名）へ嫁に行くなら買ってやるぞえ（方言で「よ」の意味）経帷子に棺桶」、「田に入れば地方病、怖くて入らねばより早い餓死」がある。

日虫症の病型としては大略4型に分類するのが簡略である。1. 無症状型；日虫に感染し日虫幼虫が皮膚を通して体内に侵入した後の皮膚炎のみの型、2. 自覚症状型；日虫に感染し、倦怠感、食欲不振、頭重等のみで他覚的所見を認めず日常生活を比較的順調に送れている病型、3. 肝脾腫型；日虫感染後に肝腫、肝脾腫、脾腫をみとめ、肝硬変症、肝癌のために死亡し、その経過の中で肝性脳症を示す病型、4. 脳症型；日虫感染後に中枢神経症状主に部分痙攣発作と同時に単麻痺や失語症等の脳の局所症状を示す病型。日虫症では病型に関係なく脳波検査で汎性 α 波パターンを示す率が高い。このパターンの意味付けは軽度の脳機能の全般的低下である。

本書では3, および4の病型の多数例について日本、比国、での症例の治療前・後の結果を臨床像、臨床検査結果、日虫感染免疫能、脳波所見等で検討した。また、甲府盆地の濃厚有病地の住民の中で自覚症状型70例を抗日虫剤で治療をして虫卵陰転後、日虫の再感染を認めない経過の35年間、病状を観察し、その中から脳症型あるいは肝脾腫型に発展した症例を観察し、紹介した。

また、家族内に複数例の患者が発症すると同一家族内では病型が同一である、家族集積性の原因を血清免疫学的に検討した。その結果家族により日虫に感染時に免疫能に強弱の差やHLAのタイプに差のあることを紹介した。

日、比国、の症例では症状に差異があることから慢性電極猫に日虫濃厚、軽症感染の2群を作成して脳、および体組織所見や電気活動波の差を見たことで日、比国の日虫の宿主に及ぼす病的影響力に差のあることや脳波所見で汎性 α 波の出現の根拠は脳中大動脈壁の肥厚による脳機能の低下が原因であることが判明した。

著者が比国の日虫症の撲滅事業に国際協力事業団の専門医として10年間参画したことで比国の日虫症とのかかわりが深まったがその業務が終わった後、1987年から比国の患者達に抗日虫剤を寄贈する「地方病に挑む会」を立ち上げ15年間に60万人分の治療薬を寄贈し、有病地で集団検診集団治療をしたために有病地地域住民の日虫感染率を低下させた活動についても触れた。

最後に甲府地方の日虫症撲滅対策は1868年から始まり、1996年に日虫症の流行終息宣言が出されたがその128年間の防治対策の経緯を紹介した。

本書は一神経内科の臨床医が日虫有病地で診断と治療に苦勞した寄生虫感染症の患者に遭遇したことで日虫症につき40年間のライフワークとなった日虫症特に脳症型と肝脾腫型についてまとめた内容である。

(信大 昭和37年卒業)